

3. 京田辺市内の小学校との 地域学習プロジェクト

文化遺産学コース3・4回生

1. はじめに

京都府立大学文学部歴史学科文化遺産学コースでは、京都府立大学と京田辺市が締結している包括連携協定にもとづく地域学習プロジェクトを2022年度から実施している。今年度は11月に、昨年実施した京田辺市立草内小学校に加えて、京田辺市立薪小学校でも実施した。ともに、小学校の時間割で1・2時間目に地域を歩き、3・4時間目にまとめ作業と発表をおこなった。なお、対象児童は草内小学校4年生2クラス約55名と、薪小学校3クラス約105名、参加学生は文化遺産学コースの4つのゼミ（考古学・歴史地理学・建築史学・文化情報学）に所属する3・4回生21名である。（和田佳織）

2. 草内小学校

(1) 事前準備

①全体

昨年度の授業では、1・2時間目は飯岡、草内、新興戸の3つの班に分かれて校区内を探検し、学生が各スポットで解説をするほか、児童が道中で見つけた地域の「お宝」を撮影した。3・4時間目は学校に戻り、スポットと各自の「お宝」をまとめた「草内お宝マップ」を各クラスで作成し、発表会をおこなった。今年度も、ルートや原稿・パネルについては概ね昨年ものを踏襲したが、昨年度は探検中・印刷時のトラブルによって時間を大幅に超過したため、その対策についての議論を新4回生で1月から開始した。また、世代交代にあたってリーダー会（各ゼミから選出）の新名称を「T4」に決定した。1月に新3回生との顔合わせをおこない、新3回生の中からもリーダーを選出し、班を新たに編成し、全体での巡検日程を決定した。2月の巡検では、午前に各班で校区内を探検し、午後は大学に戻ってお宝マップを作成することで、新3回生の本プロジェクトに対する理解を促した。5月の草内小学校との打ち合わせでは、昨年度からの改善点として、カメラ係の増員、先導係によるペース管理、印刷方法の変更などの説明をおこなった。10月16日の小学校との打ち合わせでは、本番を1か月後に控えて、改めて当日のタイムスケジュールなどを確認した。10月31日の全体リハーサルでは、昨年度混乱が見受けられた3・4時間目を中心に役割分担を詳細に確認し、本番に備えた。以下、各班での事前準備について記す。（小島慧音）

②A班【飯岡】

解説内容は基本的には昨年ものをそのまま使用し、一部誤っている箇所は修正して本番



写真1 発表会の様子（草内小学校）



写真2 集合写真（草内小学校）

に臨んだ。昨年時間通り小学校に戻ってくることができなかったという反省点を生かし、今年
は小ネタ2か所の説明を省き、確実に時間通り戻って来られるようにした。2か所とも昨年の
小学生もよく知っている内容であったので省いても小学生に与える影響は少ないと判断した。

（石川達葵）

③ B班【草内】

B班は「水と暮らし」をテーマとしており、主要スポットは水分神社、草内集落、防賀川公園
の3地点である。また、小ネタとして、昨岡神社参道の灯籠、マンホールを用意していた。
2月に巡検をおこない、当日の流れを再確認し、10月にも予行練習をおこなった。そのうえ
で、A班同様確実に時間通りに戻って来られるように、小ネタ2か所の説明を省くことを決め
た。2か所はテーマの趣旨から少し外れており、省いても全体に支障はきたさないと判断した。

（藤田尚希）

④ C班【新興戸】

2月に巡検をおこない、3回生を小学生役として4回生が実演する形で当日の流れ、ルート、
解説内容を一通りさらった。解説内容は昨年のもをそのまま使用することとした。10月に
予行練習をおこない、説明の内容と写真の撮り方、写真の集約方法を再度確認した。昨年は予
定時刻から大幅に遅れてしまったため、時間が押している場合の省略箇所や、道中での写真撮
影で進行を止めないようにすることも注意事項として新たに追加した。

（島村朱音）

（2）当日の様子

①全体

当日は8時30分に正門前に集合し、多目的室に荷物を置き、ポケットWi-Fiとパソコン、
印刷機の接続確認をおこなった。9時から正門前で出発式をおこない、A・B・Cの各班で大学
生と小学生双方の自己紹介と探検の説明をしたのち出発した。1・2時間目の時間で班ごとス
ポットをめぐり、時間内に小学校へ戻ってくることができた。3時間目の時間も別教室で班ご
とワークシートの記入とお宝マップの作成をおこない、休み時間に大学生が各クラスのお宝マ
ップを貼り合わせた。4時間目の時間は1・2組それぞれの教室で発表会をおこない（写真1）、
ワークシートに感想を記入してもらった。4時間目終了後、大学生は多目的室に戻って集合写
真を撮影して（写真2）、解散した。以下では各班の当日の動きについて述べる。（鮫島聖斗）



写真3 草内小学校 A 班（飯岡）



写真4 草内小学校 B 班（草内）

② A 班【飯岡】

正門前にて出発式をおこなった後、探検に出発した。普賢寺川、飯岡車塚古墳（写真3）、茶畑の3か所のスポットで、大学生がそれぞれ天井川、古墳に葬られた地域の王様、覆下栽培について小学生に説明した。小学生は熱心に大学生の説明に耳を傾け、大学生が伝えたキーワードを配布したワークシートに忘れずに書き込んでくれた。また道中では昨年と同様小学生に「お宝」を探してもらい、大学生がそれを写真に収めていった。各スポットでの説明以外においても大学生と小学生は「お宝」の写真撮影などを介して積極的に交流する様子がみられ、それを3・4時間目のまとめ作業にも活かした。時間に関しては全員が無駄なく進行することを心がけ、ほぼ予定通りの時刻に小学校に到着することができた。小学校到着後、3時間目に主にお宝マップを作成し、4時間目には「お宝」の発表会をおこない、予定通り午前中のうちに授業を終わらせることができた。（石川）

③ B 班【草内】

今年度も児童があらかじめ決めていたグループに対して学生を一人配属し、児童が見つけた「お宝」のカメラ係となった。そのため当日の主な役割は先頭を歩く先導係、各グループの統率・カメラ係、タイムキーパーとなっている。B班では水分神社の由来と石碑（写真4）、草内集落の洪水対策、天井川と防賀川公園の防災施設について学生が解説を実施した。当日は小ネタとして用意していた昨岡神社の灯籠とマンホールの説明を省略し、水分神社・草内集落・防賀川公園の解説に注力している。防賀川公園については学生も把握していない水害対策を知っている児童もあり、学生・児童間で情報の交換をすることもできた。写真撮影や道中の会話を通じて盛んに交流がなされ、大きなトラブルもなく予定時間通りに学校に帰還することができた。帰還後はタイムキーパーが中心となって写真の印刷をおこない3時間目からお宝マップ作成作業を進めたが、これらの作業も余裕をもって終了したことから発表練習に時間を回している。4時間目にはスポットの発表に留まらず、児童が発見した「お宝」についての発表もおこなわれ、探検中のエピソードをクラス全体で共有することができた。（岡崎壮太）

④ C 班【新興戸】

C班は主に防賀川の天井川跡、京田辺市の特産である海老芋とナス（写真5）、小学校に隣接する昨岡神社と草路城をめぐる解説をおこなった。主な解説内容として、天井川はその形成過程と危険性について、海老芋とナスはその野菜や地域独自の栽培方法について、昨岡神社は

祭神や建築装飾について、草路城は土居やその地理的特性について取り上げた。昨年度の課題であったタイムスケジュールに関して、今年度はカメラ係の増員・お宝写真の枚数制限によって対応し、タイムキーパーと先導係との連携も取れており、大きな遅れもなくスケジュール通りにめぐることができた。学校へ戻ってきてから次の3時間目までの間、撮影した写真の印刷と切り取りをおこない、予定通り3時間目を開始した。3時間目はスポットと個人のお宝写真についての解説を付箋に書き、C班のお宝マップに貼り付けた。作業中は小学生の自主性を尊重しつつ、大学生のアドバイスも適度に加え時間内に完了した。4時間目はクラスごとにその発表をおこなった。



写真5 草内小学校C班（新興戸）

(3) 感想・反省

① A班【飯岡】

昨年とは異なり午前中のうちに授業を終わらせることができ本当に良かったということが一番に思い浮かぶ。昨年度は、お宝マップ作成時の写真印刷に手間取り、午前中には発表会ができず、急遽午後小学校に時間を設けていただいた。今年度はその反省を活かし、パソコンとプリンターの接続方法、Wi-Fi環境などを改善し、事前に予行練習もおこなった。その甲斐あってか、当日は大きな混乱や遅れなく授業をおこなうことができた。小学生が私たち大学生の話をよく聞き、大学生の指示をよく聞いてくれたのも全体の進行から見るととても大きかった。今回の成功は決して大学生だけの努力だけではなく、小学生の協力もあつたうえのことだと考えている。

A班が小学生に説明した、天井川と覆下栽培はすでに授業で習っていたということだった。しかし、その内容をしっかり理解している小学生は多くなかった。実際に現地に行き、「本物」を見ながら説明を聞くことで理解を深められたことはこの授業の成果といえるだろう。

反省点としては、A班の3つのスポットとも、小学生に「全く」新しいことを伝えられなかったことが挙げられる。古墳についても一部の詳しい小学生は知っていた。いかにして小学生に「全く」新しい知識を提供できるかは今後の地域学習プロジェクトにおいて我々大学生が常に考え、努力していかなければいけない問題だと考える。

② B班【草内】

昨年の反省を活かして、探検中は前後の間が開かないように都度声かけをおこない、時間内に探検を終えることができた。タイムキーパーを除く全員がカメラ係となっており担当する小学生は決まっていたが、担当の小学生以外とも積極的にコミュニケーションを取っていた。写真を撮る場所も、まとめ作業の時の配置バランスを考えて全体に写真が分散するように大学生側からの声かけをしっかりとっていた。

今回の反省点は、クラスによってカメラ担当をする小学生の数に差がありすぎた点である。1組の担当をした学生は、1人あたり5人程度の小学生を担当しなければならなかった。一方、

2組はもともと小学生の人数が1組よりもやや少なく、学生の担当する小学生は1人あたり2～3人に限られた。1組と2組で探検中の学生の負担に大きな差ができてしまった点は改善する必要がある。事前に小学生の人数比を具体的に確認しておくことが改善策としてあげられる。(橋本唯)

③C班【新興戸】

C班も他班と同じく基本的にはタイムスケジュール通りに円滑に探検を実施することができた。これにはタイムキーパーの配置とメンバー間で連絡が密におこなわれていたことが結実したものであると考える。また、ルート上で交通量が多く危険と判断した箇所での解説を別の場所へ移動してからおこなうなど、昨年度の反省が大いに活かされた。小学生がオリジナルな「お宝」を積極的に探そうとする姿勢も印象的で、地元の「お宝」を発見してもらおうという本プロジェクトの目的は達成されたと考えたい。(依田萌奈)

3. 薪小学校

(1) 事前準備

①全体

今年度、薪小学校との地域学習プロジェクトの実施が初めてであったため、まず3月19日に『薪誌』(薪誌刊行委員会編1991)の読み合わせをおこなった。そして3月24日に薪で巡検をおこない、4月にルート決定をした。その後9月までは各班でそれぞれ解説文やフリップ作成をおこない、10月に各班のフリップを共有し、11月に全体リハーサルをした。薪小学校では班ごとに1つ大学生が地域のお宝を設定し、全班共通のお宝として棚倉孫神社を歩いて回り大学生が説明をするという行程で実施した。以下、班ごとの準備について記す。

(岩井天)

②A班【一休寺→棚倉孫神社】

A班は「食」をテーマにスポットを選考した。その結果、一休寺の「一休寺納豆」と棚倉孫神社の「瑞饋神輿」について小学生に伝えることに決まった。一休寺納豆については実物入手することができたため、授業当日に小学生にも見せようという方針となった。瑞饋神輿も授業当日には現物が神社にあるだろう、ということだったので、同じように実物を見ながら大学生による発表を聞いてもらうことでより理解を深めてもらう方針を取った。夏休み中に授業で使用するフリップを作成、10月にはフリップも使用して現地で発表の練習をおこなった。その日には棚倉孫神社で瑞饋神輿の製作がおこなわれており、作っていた方から実際にお話を聞くこともできた。

(樋上千翔)

③B班【薪神社→棚倉孫神社】

B班は5月と直前の11月に巡検をおこない、「石」をテーマにスポットを選考した。決まった主要スポットは薪神社と棚倉孫神社の2つである。薪神社・棚倉孫神社ともに概要を説明してから、薪神社では神南備神社の遙拝所である影向石について、棚倉孫神社ではどこでも拝むことができる遙拝所について主に扱った。また、スポットで探す押しポイントについても小学生が見つけやすいように考慮した。本番直前まで大学生側・訪問先が小学生に学んでほしいことをすり合わせ、解説文やフリップ、ワークシート、3・4時間目に使用するロイロノート



写真6 薪小学校 A 班（一休寺）



写真7 薪小学校 B 班（薪神社）

を作成した。

（和田）

④ C 班【墓の角池→棚倉孫神社】

C 班はまず 5 月に薪で巡検をおこない、ルートの確認と地域の理解を深める作業をした。6 月には薪誌の読み合わせをして、フリップとロイロノートの作成に取り組んだ。そして、11 月にもう一度薪に巡検に行き、ルートの最終確認と細かいスケジュールのシミュレーションをおこなった。

（岩井）

（2）当日の様子

①全体

当日は 8 時 15 分に正門前に集合した。草内小学校と比べて駅から薪小学校は遠距離にあること、大学生の集合から出発式までの時間が短く設定されていたことから、より余裕をもったスケジュール設定が必要であったと思われる。

8 時 35 分から出発式をおこない、班ごとに自己紹介、ワークシートの配布をした後出発した。1・2 時間目は各班でスポットをめぐり、すべての班が時間通りに小学校に戻ってくることができた。3 時間目は各々自分のクラスに戻り、6 人の班ごとにロイロノートの作成をおこなった。4 時間目は 3 時間目で作成したロイロノートを使って、スポットで学んだこと、班員一人一人の推しポイントを発表した。以下では各班の当日の動きについて述べる。（崎浜七夏）

② A 班【一休寺→棚倉孫神社】

一休寺（写真 6）では大学生が持参した一休寺納豆の実物に興味を示してくれた小学生がとても多かった。一休寺納豆自体は知っている小学生もいたが、実物を食べたことがあるという人はいなかったようなので、実物を見せられたのはとても良かったのではないだろうかと思う。においを嗅いだりもして、普通の納豆との違いに皆驚いていた。

棚倉彦神社でも瑞饋神輿の実物を見ることができたため、小学生たちはとても興味を持ったようだった。小さな米 1 粒 1 粒までも見えるような距離で観察でき、どこに何が使われているのか、どうやって色を塗ってあるのかなど様々な話題で盛り上がった。（樋上）

③ B 班【薪神社→棚倉孫神社】

B 班は「石」をテーマとして薪神社（写真 7）と棚倉孫神社をスポットに選定し、2 つのスポットを通して遥拝所についての解説をおこなった。解説ののちにおこなった推しポイント探しでは、事前に準備した推しポイント探しのヒントがあったため、どの小学生も自分の推しポ



写真8 薪小学校C班（棚倉孫神社）

をおこなった。

④ C班【墓の角池→棚倉孫神社】

C班は「水」をテーマに選考した墓の角池と棚倉孫神社を順番にめぐり、墓の門池では立て樋について、棚倉孫神社では付近を流れる天井川についての解説をおこなった（写真8）。さらに解説をおこなった後、それぞれ班に分かれてスポットの推しポイント探しをおこなった。推しポイント探しでは、事前に用意した推しポイントを探すためのヒントとなるフリップが役に立ち、多くの小学生が自分の推しポイントを見つけることができた。3時間目には、班に分かれてスポットのポイントと推しポイントをロイロノートに書き込み、発表の準備をおこなった後、4時間目にはクラス内で発表をおこなった。スムーズにロイロノートの作成をすることができたため、発表の準備の時間を多く取ることができ、ほかの班の小学生にもわかりやすい発表となった。

（多田一郎）

（3）感想・反省

① A班【一休寺→棚倉孫神社】

一休寺から棚倉孫神社までは歩く距離が長く、途中で信号を渡る箇所もあったが、大学生や小学校の先生方が周りに気を配り、終始安全に移動することができたのが良かったと思う。また、3時間目に推しポイントをロイロノートに記入する際、一休寺を担当した班の推しポイントが全員ほぼ同じ内容になってしまうということがあった。初めは1人違う視点で推しポイントを書いていた子がいたが、班で1人だけ違ったポイントであると気が付いてから他のメンバーと同じ内容に変えてしまっていた。1人だけ違う内容なのが嫌だったためらしいが、こちらから無理に指示するのも良くないため対応に困る場面があった。推しポイントについては様々なものを出してもらうためにもっと工夫が必要だったと感じた。

（樋上）

② B班【薪神社→棚倉孫神社】

小学生がスポットで推しポイントを探す際、探すヒントを提示したが、小学生に次やることが伝わりやすくスムーズに推しポイント探しができた。イラストを多めにしたフリップは小学生の関心を惹き、解説にも興味を持ってくれたようである。小学生からスポットについて疑問を投げかけられることもあり、小学生の自発的な学びにつながったようで良かったと思う。

（栗田晋吾）

イントを見つけられていた。なかには複数の推しポイントを見つけられた小学生もいた。解説や推しポイント探しをスムーズにおこなうことができ、時間を調整しながら進めたため、1・2時間目の行程を時間内に収める事ができた。3時間目では各クラスの班に分かれ、ロイロノートの作成をおこなった。作業が順調に進んだため、各班で発表練習の時間を多くとることができ、4時間目にはスポットで学んだことと推しポイントについて発表

（岡橋莉奈）

③ C班【墓の角池→棚倉孫神社】

小学生に推しポイントを見つけてもらうために先に注目すべき点などを提示したことは、小学生が自分自身で推しポイントを見つける糸口になった。小学校を出て道を歩く際に、あらかじめ小学校側に列を決めてもらい列を崩さずに移動したことは、小学生の安全を守り、班をまとめるために非常に効果的であった。

反省点としては、小学生に推しポイントを見つけてもらう際に自由行動の時間を取ったが、高い場所の柵のそばなど事故の危険のある場所に行く小学生が多かったため、あらかじめ小学生に危険な場所には行かないように注意をおこなうなど対策が必要だと感じた。3時間目の推しポイントをロイロノートに書き込む際に、ある程度ではあるが小学生たちが書き込むポイントが被らないように大学生がポイントを見つけ、アドバイスをしても良いと思う。(山蔭晴人)

4. おわりに

以上、今年度の京田辺市立小学校との地域学習プロジェクトについてまとめてきた。今年度は大きなミスもなくほぼ事前の予定通りのスケジュールで授業をおこなえて安堵している。ご協力いただいた京田辺市のみなさまにも感謝申し上げます。

草内小学校との地域学習プロジェクトでは、昨年度時間を大幅にオーバーしてしまったこともあり、スケジュールよりも実際の進行が遅れてしまった場合の対応は事前に想定して大学生間でも共有できていたが、当日はその逆となってしまう、時間が余ってしまった場合に小学生にやってもらうことの指示が特に3時間目のお宝マップ作成の時間において大学生ごとに異なる場合が見受けられた。時間が足りない場合も余ってしまう場合も両方想定しておくことが必要であろう。また、4時間目の発表会の時間の進行に関しても手順を事前に決めておらず、細部の進行を司会の技量に頼っている場面や小学校の先生の力を借りている場面が見受けられたので来年はさらに細かく準備してみても良いかもしれない。

薪小学校での地域学習プロジェクトは今年度初めてであったにもかかわらずほぼ事前の予定通りのスケジュールでおこなうことができたのは本当に良かった。ただし、薪では3クラスにまたがる班で1・2時間目に校区探検をしたが、移動中に各クラスの間隔が空いてしまうことが起こってしまっていた。また、人数が多いため、推しポイント探しの際に小学生がばらばらと広がって再度並んで出発するのに時間がかかってしまう場面が見受けられた。

おおむね今年度の地域学習プロジェクトは事前の予定通りおこなえたが、細部をみればまだまだ改善すべき点は見受けられるので来年度はこれらをできる限り改善したよりよい授業をおこないたい。

(石川)

参考文献

薪誌刊行委員会(編)1991『薪誌』

文化遺産学コース3・4回生2023「京田辺市立三山木小学校との地域学習プロジェクト」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第9号 京都府立大学文学部歴史学科

文化遺産学コース3・4回生2024「京田辺市内の小学校との地域学習プロジェクト」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第10号 京都府立大学文学部歴史学科

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
